

在宅看取りにおける経過時期別連携シート

	各職能の活用状況	シートの内容に関するご意見
高知市居宅介護支援事業所協議会	<p>* 高知市居宅介護支援事業所協議会内で調査を実施。回答数：76居宅シートを活用している：7.9% (6/76)、活用していない：84.2% (64/76)、その他：7.9% (6/76)</p> <p><活用に関するご意見(抜粋)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らなかった。 ・習慣化していないから使用できていない。 ・シートの名前を聞いて思い出すことはできた。片付けて分からない。 ・看取りのケースを対応していないので、活用していない。 ・看取り期は展開が早いので活用する暇がない。 ・看取りの事例経験が少ないケアマネにとっては、活用できると思う。 ・連携シートはあくまで参考資料と思っている。 ・院内研修で活用した。他職種の連携が分かりやすいと意見あり。 ・新人ケアマネの学びになると思う。知らないケアマネも多いので、新人研修での活用するのはいかがでしょうか。 ・新人ケアマネの基本的なマニュアルとして活用できる。 ・活用方法の研修や、活用した振り返りの研修もあればよい。 	<p>(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字が小さく読みづらい。読む気がしない。 ・ターミナル期の利用者には、シートに沿ったような対応がすでにできている。 ・シートに頼らなくても、必要な対応ができている。 ・自分で調整するパターンができている。 ・マニュアルばかり重視すると、その通りにしか動けなくなるケアマネも出てくる。
公益社団法人高知県看護協会	<p><訪問看護の視点で></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新人看護師や新たに訪問看護を始める事業所、スタッフにはよい指標になると考える。 ・事業所独自で看取りの経過時期別シートを作成しているが、訪問看護の視点のみになるので、このマニュアルを用いることで、多機関を俯瞰して全体的な流れで捉え、時期別の役割を明確にすることで、市内全体の看取りの質の向上が図れると考える。 ・在宅での看取りとなると、医療者(訪問診療や訪問看護)が主体となり、他職種は一步引いている印象を持つことがあると聞く。このマニュアルで、時期別で役割が明確にされていることで、チームでの協働方法を具体的に落とし込めることは有意義。どの場面で、どのように繋がったら良いのかの指標になる。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の多数は、各職種の役割を知らないと感じているので、このシートを活用することで周知につながると考える。 ・シートの名称が「在宅看取り」となっていますが、医療機関の職員にも理解してもらうことで自宅療養への意思決定支援に役立てられると思う。 ・看護協会では、県内9つの地区支部で多職種事例検討会を開催し、看看連携に加え、他職種との連携を推進している。看取り事例を用いた検討もしており、参考にさせていただく。 	
高知市地域包括支援センター		<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士の出番が訪問歯科医の安定期の欄にあるが、準備期から介入があればよいのではないか。(がんの部位にもよるが)管理栄養士の意見も聞くことができれば良いと考える。 ・看取り期の利用者に訪問歯科医に関わってもらった事例を聞いてみたい。